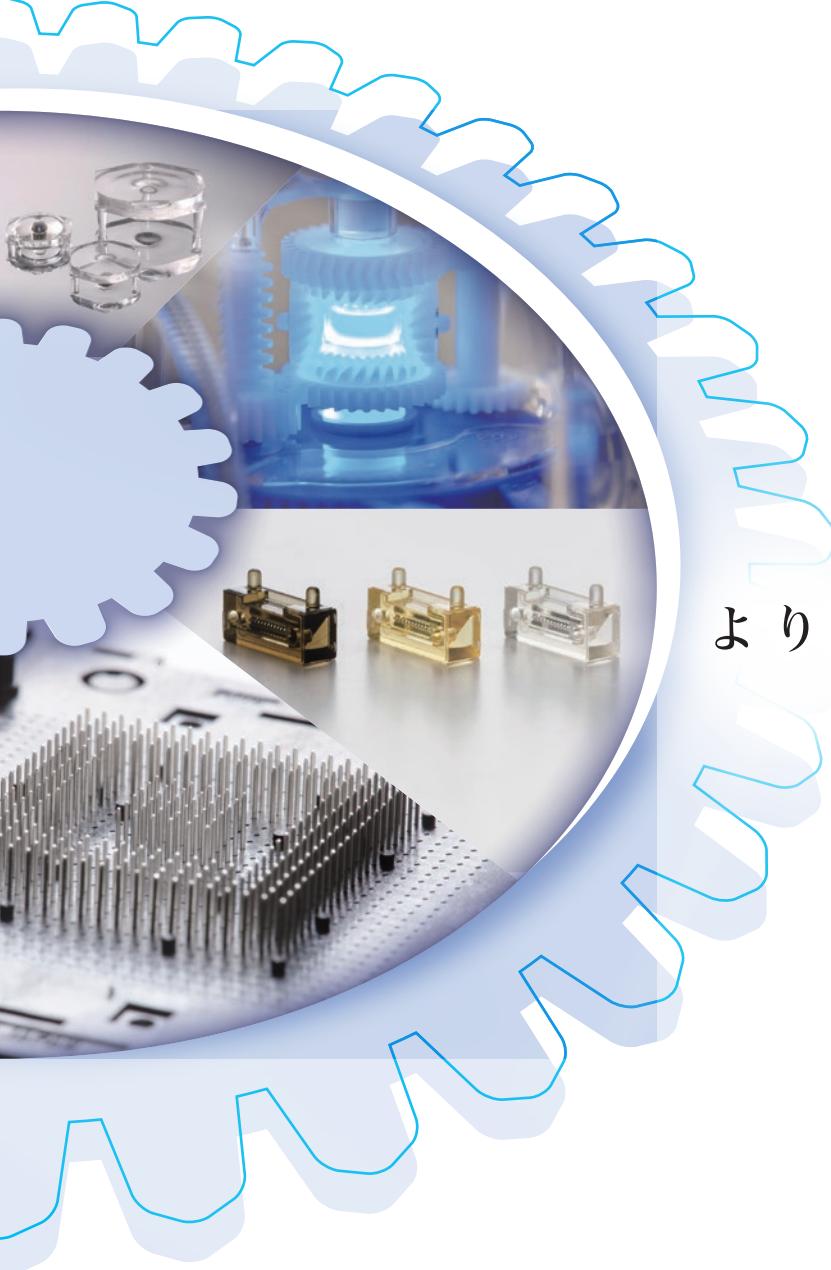


株式会社エンプラス

(証券コード:6961)



よりよき明日を目指して

2023年3月期(第62期)中間報告書
2022年4月1日から2022年9月30日まで

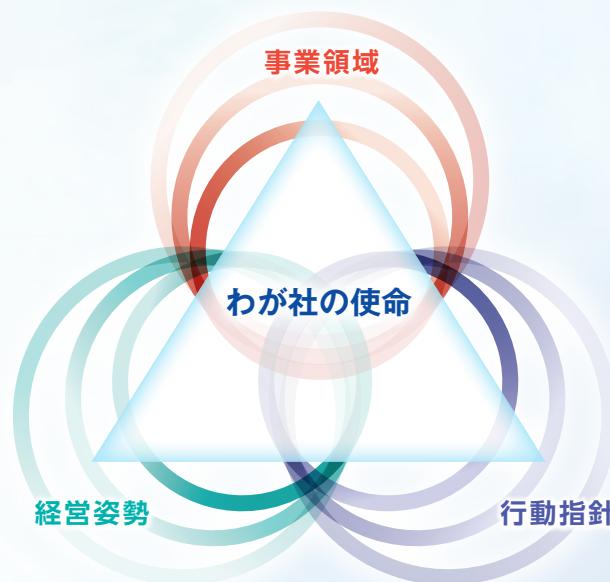
enplas



株式会社エンプラス

Contents

- 01. 企業理念
- 02. 株主の皆様へ
- 04. 連結業績の推移
- 05. 事業別概況
- 06. Essential領域：Semiconductor事業の紹介
- 07. サステナビリティに関する取り組み
- 09. 会社概要/株式情報/株主メモ
- 10. グローバルネットワーク 国内ネットワーク
- 巻末. グローバルネットワーク 海外ネットワーク



わが社の使命

信頼の絆をもとに、あらゆる変化に対応する強靱な経営基盤を堅持し、

1. お客さまに感謝される製品とサービスを提供します。
2. 能力と成果を公正に評価し、社員の生きがいを育みます。
3. 株主の皆さまの期待に応え、企業価値の向上を目指します。

これらの実践を通して豊かな社会の発展に貢献します。

事業領域

エンジニアリングプラスチックで培った先進技術をもとに、さらに最先端技術を追求し、創造的価値を世界市場に提供します。

経営姿勢

1. 卓越した技術と信頼される製品により、競争力と成長力を追求します。
2. 健全な財務体質により着実な発展を図ります。
3. 全ての企業活動において確かな品質に責任を持ちます。

行動指針

1. 創造的な目標を掲げ、情熱を持って挑戦します。
2. 感謝の心と学ぶ姿勢を大切にします。
3. 公私を明確にし、公明正大に行動します。

株主の皆様へ

当社は、創業以来培ってきたエンジニアリング
プラスチック総合技術のさらなる先進化と活用により、常に高精度、高機能、高品質を追求し、お客様に感謝されるより良い製品とサービスの提供を通して社会の発展に貢献してまいります。



代表取締役社長 横田大輔

Q

上期の経営実績と事業環境について
お話しください。

当第2四半期連結累計期間の売上高は21,097百万円（前年同期比30.9%増）となり、営業利益は4,355百万円（前年同期比163.2%増）、経常利益は4,508百万円（前年同期比194.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,762百万円（前年同期比93.6%増）となりました。

各セグメントの業績につきましては5ページに掲載しております。

世界経済は、半導体不足、部品不足、物流網の混乱による供給制約は、一部解消に向かっているものの、ドル高基調の継続やインフレの拡大など、先行き不透明な状況が続いております。

そのような状況の中、当社では「競争力と共創力による成長の実現」を第62期の経営基本方針として掲げております。当社は、顧客のニーズに対して当社グループの技術やソリューション提案力の強みを繋げることにより、課題の解決を通し社会に貢献するとともに、新規事業創出の機会としてまいります。

Q

下期の取り組みについて
お話しください。

Semiconductor事業は、特に当社が注力しているサーバーや自動車用途の需要は今後も増加傾向が続くと予想しております。市場成長を着実に取り込むため、競争力の強化、モノづくり体制の強化、新ソリューション開発の推進を事業戦略としております。

Life Science事業は、遺伝子検査装置に使われるチップ（デバイス）を製造しており、人々の健康意識の高まりにより、遺伝子検査市場も成長が見込まれると考えております。当社は遺伝子検査普及への貢献と、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）向上に貢献できるよう、Life Science事業の成長に向けて注力してまいります。

Digital Communication事業では、光通信関連につきましては、ハイエンド領域での新製品拡大とデータセンター以外への事業領域拡大を図ってまいります。また、光通信関連はEssential領域にも該当し、中期的にも成長が予想されることから、基幹事業化に向けてリソースを振り向けてまいります。

株主の皆様へ

Digital Communication事業のLED用拡散レンズは、既存領域の収益性確保と、新ソリューションの開発に注力してまいります。

Energy Saving Solution事業では、EV化への流れが加速すると考えており、持続可能な成長に向けた業態転換、ギャソリューションビジネスでの成長を進めてまいります。

Q 中長期の考え方についてお話しください。

当社経営の生命線は「新規性の追求」にあると考えており、顧客や関係する機関とこれまでに築き上げてきた信頼関係のもと、継続的に研究開発を行い、次の事業の種を蒔いております。

事業ポートフォリオにつきましては、当社は今後、よりEssentialな領域に注力してまいります。Essential領域とは、人と地球のQOLを高める領域であり、具体的には環境負荷を減らし、人々の健康で安心安全かつ快適な生活を支える領域と定義しております。2022年4月28日に公表した中期戦略においては、2025年3月期の目標としてEssential比率75%を掲げており、事業ポートフォリオをシフトすることで変動の大きな事業運営ではなく「持続可能な成長」を目指してまいります。

Semiconductor事業とLife Science事業は事業自体がEssentialな領域であり、マーケット自体も成長領域です。Digital Communication事業とEnergy Saving Solution事業は、捻出した利益をEssential領域に振り向けるとともに、Essentialな領域へと業態転換を進めてまいります。

Q 株主還元についてお願いします。

当社は、健全・堅実な経営により強固な財務体質を堅持するとともに、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針としております。

上記の基本方針と当期の業績等を総合的に勘案し、中間配当については1株あたり5円増配し、30円とすることといたします。また、期末配当予想についても1株あたり30円とし、年間60円に修正いたします。

Q 株主の皆様へ一言お願いします。

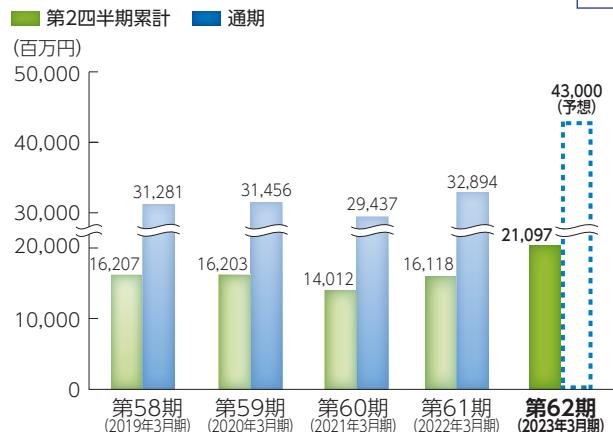
私たちは、創業以来培ってきた高精度・微細加工技術をもとに、当社にしか実現できない高付加価値製品の開発に挑戦し、お客様に感謝される製品・サービスを提供することで、豊かな社会の発展に貢献してまいりました。世界情勢は先行き不透明な状況が続く中、当社の技術を活用し、引き続き社会に貢献できる製品を開発してまいります。

また近年、中長期的な視点で企業価値を評価する際に、財務情報だけでなく、環境・社会・ガバナンスに関連する非財務情報を重視する傾向にあります。サステナビリティに関する当社の取り組みは7~8ページに掲載しておりますので、ご覧頂けると幸いです。

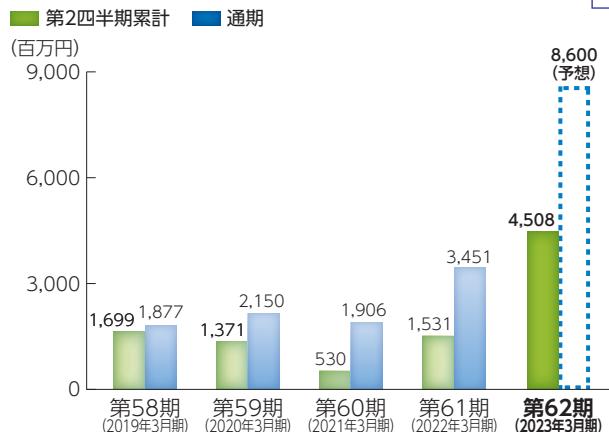
今後とも、株主の皆様にはより一層のご支援とご鞭撻を賜ります様、よろしくお申し上げます。

連結業績の推移

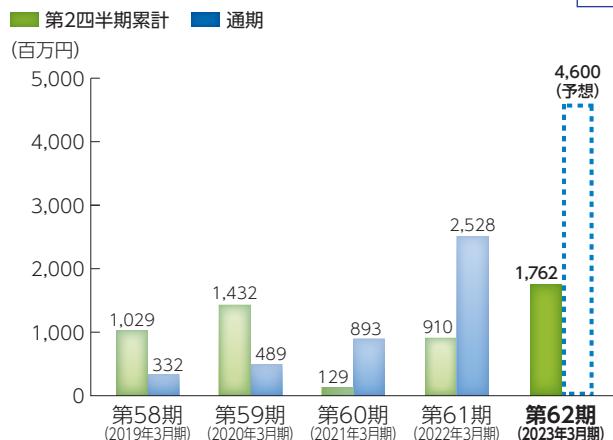
■ 連結売上高 1



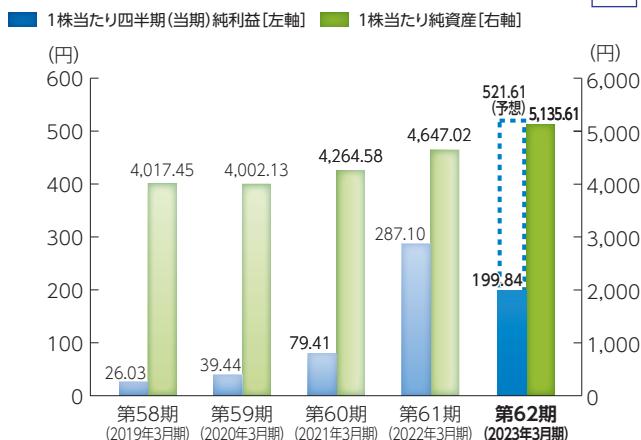
■ 連結経常利益 2



■ 親会社株主に帰属する連結四半期(当期)純利益 3



■ 1株当たり四半期(当期)純利益 / 1株当たり純資産 4

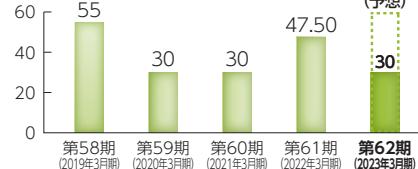


株主還元について

1株当たり
配当金60円

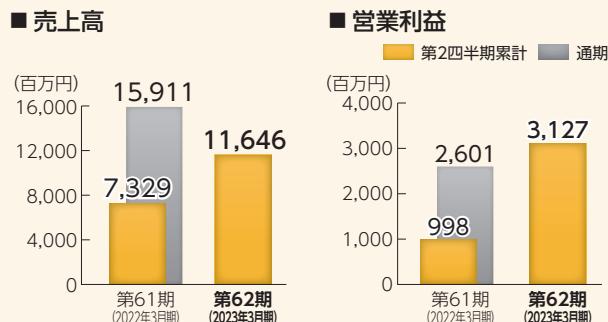
当社では、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針とし、また、安定的配当の考え方も取り入れ、今期以降の業績予想を勘案して、中間配当を含む年間配当は1株当たり60円を予定しております。

■ 配当金 (円)



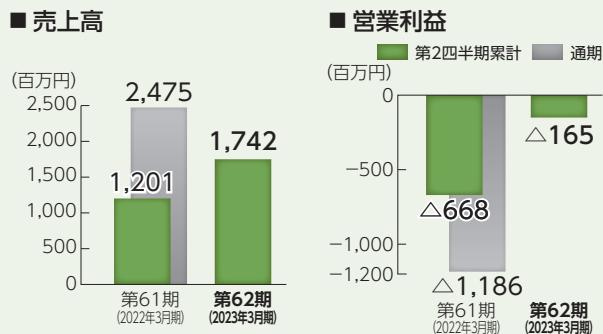
事業別概況

Semiconductor事業



各種ICテスト用ソケット、バーンインソケットは、サーバー、自動車、モバイルの各用途の需要が高水準を維持し、円安の恩恵も相まって、売上高は過去最高となりました。

Life Science事業



遺伝子検査用製品は、既存顧客及び新規顧客からの受注が増加し、売上高は過去最高となりました。なお、当該Life Science事業には、新規分野への先行投資や新事業開発が含まれております。

Digital Communication事業



光通信関連の光学デバイスは、世界的な半導体不足の影響が改善し、売上高は好調に推移しました。LED用拡散レンズは、巣ごもり需要の反動やウクライナ情勢の悪化、インフレによる液晶テレビ市場の需要減少の影響を受け、売上高は低調に推移しました。

Energy Saving Solution事業



自動車用部品とプリンター用部品は世界的な半導体不足や部品の調達難、上海ロックダウンによる顧客の生産調整を受けたものの、半導体不足が徐々に解消に向かい、自動車の生産回復とプリンター需要の増加により売上高は堅調に推移しました。

Essential領域：Semiconductor事業の紹介

暮らしの様々なところに使われている半導体は、安心・安全に使用するために、半導体製造の最終工程でソケットを使った検査が行われます。

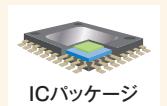
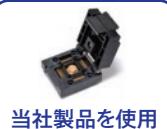
半導体製品完成まで



「設計/マスク作成工程」ではICの機能を決定した後、回路の設計を行い、その回路に基づきICを製造するためのマスクを作成します。

「前工程」ではウェハと呼ばれるシリコン基板の上に集積回路を作りこみます。

「後工程」では前工程で作られたICチップを各種パッケージに封入し、入念な検査を経て製品として完成します。

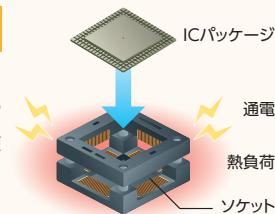


バーンインソケットとは

全ての半導体は出荷前に性能検査が行われます。この検査に使われる治具を「テストソケット」と言います。その中でも加熱加速試験等で、半導体のICパッケージを挿入固定、通電し強制的に初期不良を発生させることで、デバイスを選別するための治具を「バーンインソケット」と言います。

バーンイン試験とは

自動車やCPUで使用されるICパッケージを高温のストレス環境下におき、さらに電圧や信号を加え、ICの初期不良を取り除く試験です。



売上高



強み「顧客密着体制」

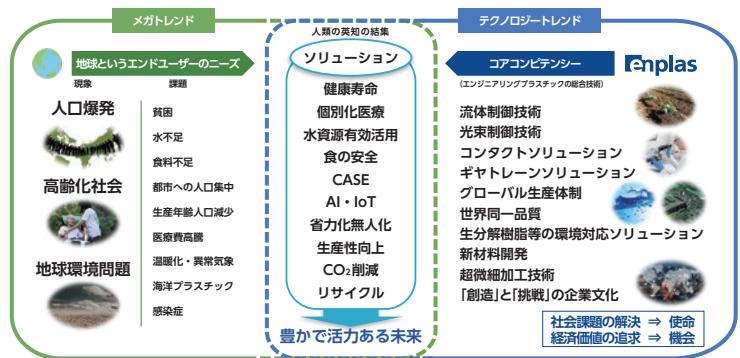
開発	顧客の開発ロードマップに沿ったソケットの開発	生産	顧客要求を充たす生産体制
営業	世界12の国と地域における顧客密着の営業体制	フィールドサポート	ソケット販売後の顧客サポート体制の充実

サステナビリティに関する取り組み

当社は創業以来、エンジニアリングプラスチックによる超精密加工に特化し、創造的価値を世界市場に提供することで社会に貢献してまいりました。当社グループの経営方針・企業精神・企業倫理を具現化したものが企業理念であり、社会の発展に寄与すべき企業使命を明確にするとともに当社グループのコーポレート・ガバナンスの基本原則となっております。

〈エンプラスの目指す姿〉

近年、企業存続に向けたESGやSDGsへの取り組みや情報開示に対する社会の要請が高まっており、当社グループでは、社長のリーダーシップのもと、当社グループのコアコンピテンシーと社会課題を紐付けた「エンプラスの目指す姿」を策定するとともに、従業員に向けたESG情報の発信を行っています。



重要課題(マテリアリティ)の策定

当社グループが取り組むべき重要課題(マテリアリティ)をサステナビリティ委員会において特定し、取締役会で下記の重要課題を特定しました。(詳細は当社ホームページをご確認ください。)

重要課題の特定「人と地球のQOLを高めるEssential領域への貢献」

事業

Essential領域への事業ポートフォリオ転換

人々が「安心で快適な生活」を送るために必要不可欠であり、地球環境への負荷が低い社会の発展に貢献するソリューションを提供することで、社会課題の解決と経済価値の追求を目指しております。

環境

生産性向上と環境負荷の低減

生産性を向上することにより、当社グループ内での電力消費、プラスチック廃棄による環境への負荷を削減してまいります。

人材

組織力向上

Essential領域における社会課題を解決するソリューション提供に挑戦できる人材を育成してまいります。

Environment (環境)

環境方針

エンプラスは、エンジニアリングプラスチック及びその複合材による、高精度・高機能プラスチック精密機構部品・製品の開発、製造、販売に関わるあらゆる面で、地球環境の保全を企業の果たすべき重要な課題として捉え、その保護活動に積極的に取り組みます。

1. 環境目標を設定し、それを達成するために全社的な環境管理システムを構築し、継続的な改善向上を図ります。
2. 業務の合理化や改善等を通じ、環境負荷の低減・省エネルギー（電力使用量等削減／CO₂削減）を推進します。
3. 廃プラスチックの削減と再資源化を推進します。
4. サプライヤーとの協働により調達品の環境負荷低減に努めます。
5. 環境規制や環境協定等を順守します。
6. 企業活動から汚染を排出しないようその予防に努めます。
7. 社会の一員として、地域の環境保護や維持に貢献します。

《適用範囲》

組織の単位・物理的境界	区分	適用範囲
工 株 式 会 社 エ ン プ ラ ス	グローバル本社	自己宣言
	本社	自己宣言
	鹿沼工場	審査登録
国 内 グ ル ー プ 会 社	株式会社エンプラス 研究所	自己宣言
	株式会社エンプラス 半導体機器	自己宣言
	QMS株式会社	自己宣言

エンジニアリングプラスチック及びその複合材料によるプラスチック精密機構部品・製品の開発、製造

Social (社会)

エンプラス品質方針

お客様に感謝されるより良い品質の製品とサービスを提供します。

1. エンジニアリングプラスチックを基盤とした総合技術による確かな品質で、世界市場のニーズに応え、社会の発展に貢献します。
2. 法令、規制、お客様の要求事項を遵守し、お客様から信頼を得られるよう行動します。
3. 品質マネジメントシステムの継続的な改善により、あらゆる変化に対応できる品質基盤を堅持します。

2020年6月10日改定

Governance (ガバナンス)

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社の経営方針・企業精神・企業倫理を具現化したものが企業理念であり、社会の発展に寄与すべき企業使命を明確にするとともに当社のコーポレート・ガバナンスの基本原則となっております。その企業理念に基づき、持続的な企業価値の向上を実現する為に、「エンプラス コーポレート・ガバナンス ポリシー」を制定し、コーポレート・ガバナンスの継続的な充実に取り組んでおります。

会社概要 / 株式情報 / 株主メモ

(2022年9月30日現在)

会社概要

商号 株式会社エンプラス
所在地 埼玉県川口市並木2丁目30番1号
設立 1962年2月21日
資本金 80億8,045万円

取締役

代表取締役社長	横田 大輔
取締役兼経営執行役員	藤田 慈也
社外取締役(監査等委員)	井植 敏雅
社外取締役(監査等委員)	久田 眞佐男
社外取締役(監査等委員)	天羽 稔
取締役(監査等委員)	當間 和幸

株主メモ

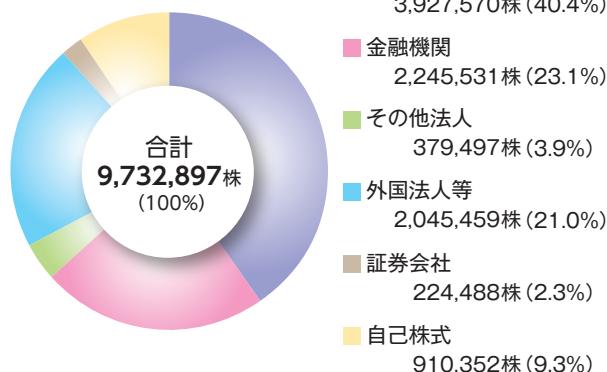
事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
郵便物送付先、連絡先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 (お問い合わせ) ☎0120-288-324
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日
公告方法	電子公告 (https://www.enplas.co.jp/) ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。 貸借対照表、損益計算書は、決算公告に代えてEDINET (https://disclosure.edinet-fsa.go.jp/)にて開示しております。
上場金融商品取引所	東京証券取引所

(2022年9月30日現在)

株式情報

発行可能株式総数	62,400,000株
発行済株式総数	9,732,897株
株主数	3,135名

所有者別株式分布状況



グローバルネットワーク

■ 国内ネットワーク

グローバル本社

東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング9F

本社

埼玉県川口市並木2丁目30番1号



東京都
・グローバル本社
京都共創センター



本社



鹿沼工場



株式会社エンプラス半導体機器



QMS株式会社



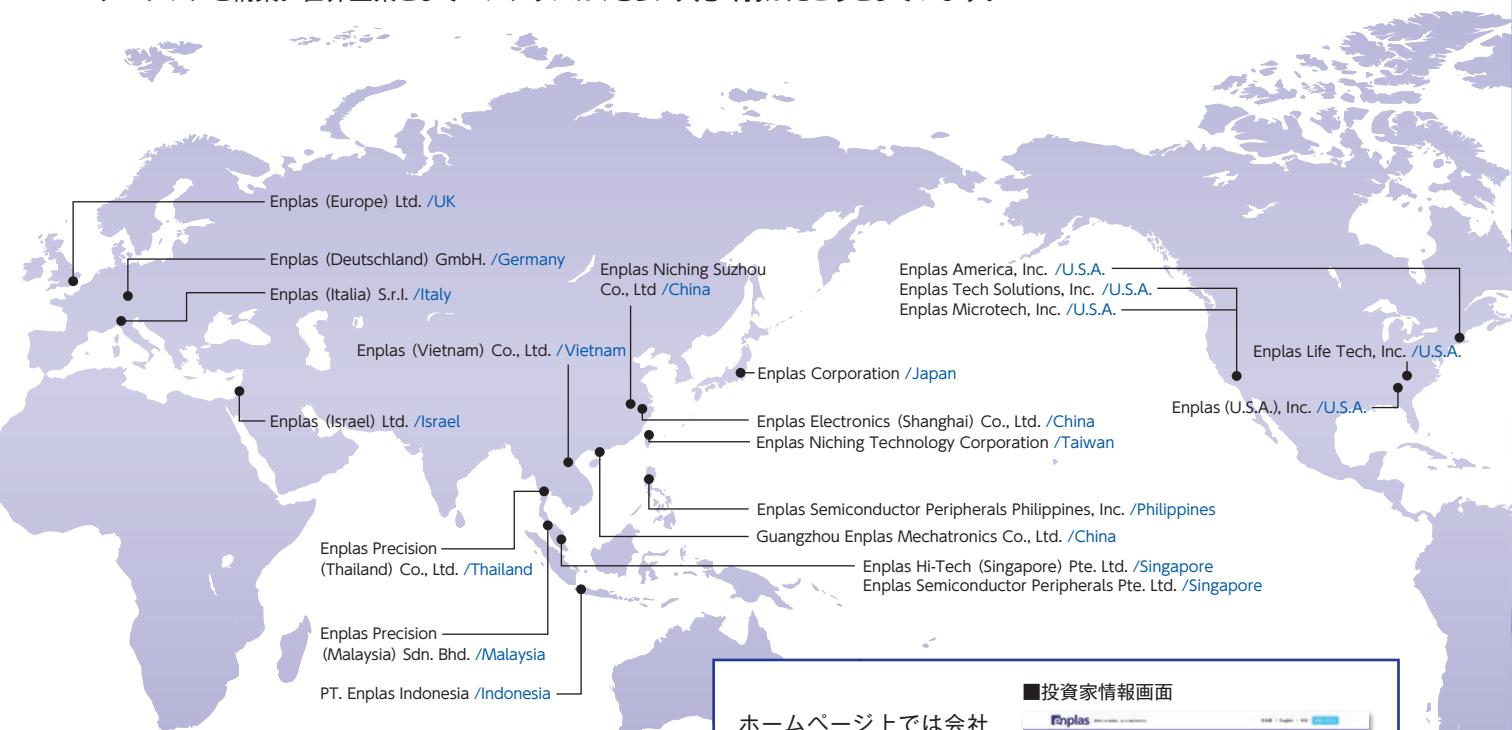
株式会社エンプラス研究所

グローバルネットワーク

■ 海外ネットワーク

技術の絆。信頼の絆。活躍の舞台はグローバルです。

アジア、アメリカ、ヨーロッパにある世界拠点を結ぶグローバルネットワークによって24時間稼働し続ける「エンプラス」グループ。こうしたグローバルネットワークを通じて、企画・開発段階から、各産業界のトップメーカーと技術に裏打ちされた信頼のパートナーシップを構築。世界企業としてエンプラスは、さらに大きく羽ばたこうとしています。



株式会社エンプラス

〒332-0034 埼玉県川口市並木2丁目30番1号

Tel : 048-253-3131 (代表) Fax : 048-255-1688

<https://www.enplas.co.jp/>

UD FONT

見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



ホームページ上では会社概要、財務情報をはじめ業務内容やプレスリリースなど最新の情報を幅広くお知らせしています。ぜひご覧ください。

エンプラス IR

検索

■ 投資家情報画面

